

バックホウによるクレーン作業時の要注意事項

1. バックホウの仕様と吊れる荷重を知っておこう

鉄板の重さ

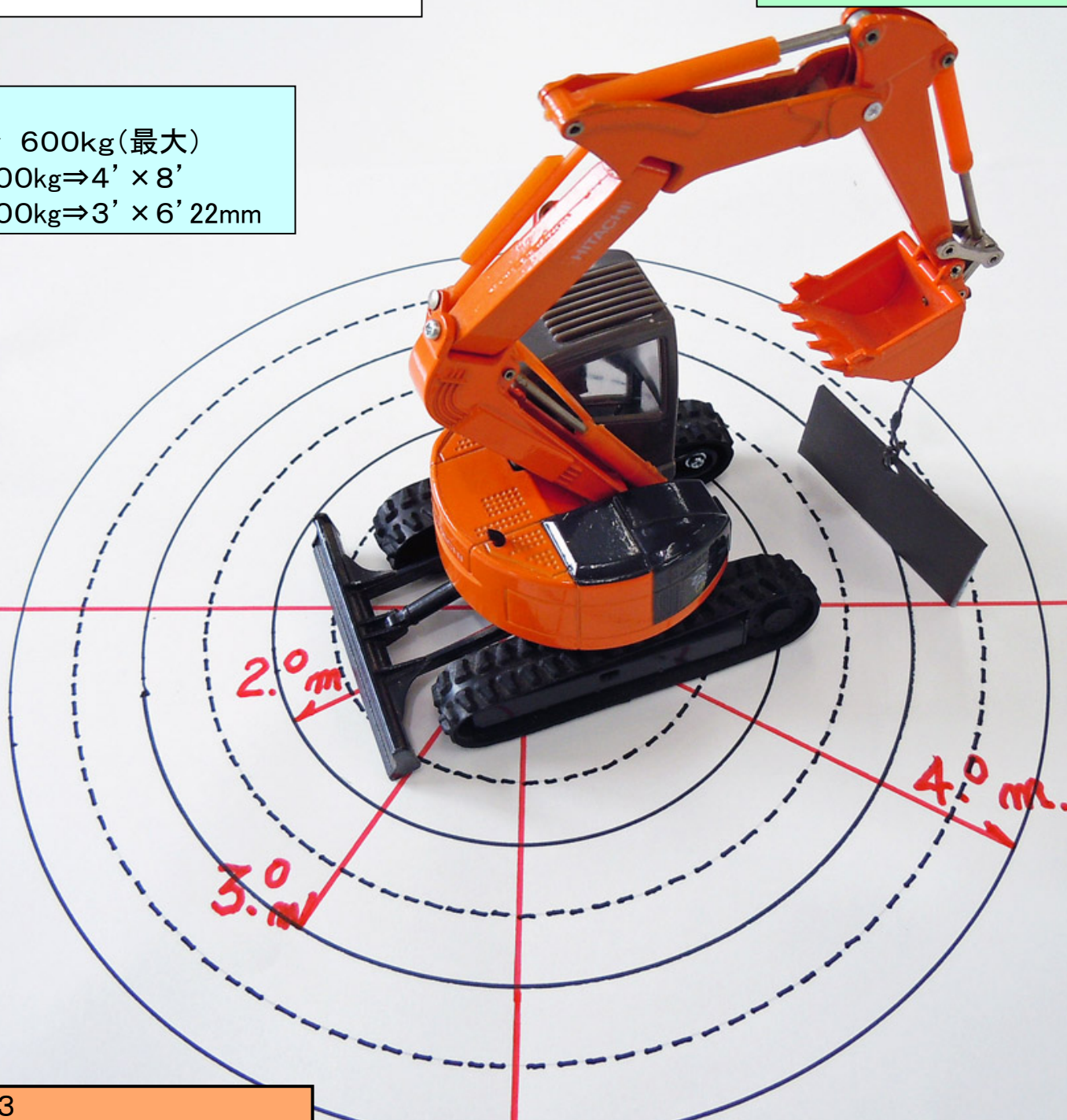
3' × 6' (0.9m × 1.8m) 厚さ18mm: 250kg
 " " 厚さ22mm: 300kg
 4' × 8' (1.2m × 2.4m) 厚さ22mm: 500kg
 5' × 10' (1.5m × 3.0m) 厚さ22mm: 800kg

IHI 40VZ

作業半径2.25mまで 900kg(最大)
 " 2.4mで800kg⇒5' × 10'
 " 3.0mで500kg⇒4' × 8'
 " 4.0mで300kg⇒3' × 6' 22mm

IHI 30VZ

作業半径2.0mまで 600kg(最大)
 " 2.2mで500kg⇒4' × 8'
 " 3.6mで300kg⇒3' × 6' 22mm



日立 ZX30UR-3

作業半径1.9mまで 900kg(最大)
 " 2.2mで800kg⇒5' × 10'
 " 2.8mで500kg⇒4' × 8'
 " 3.8mで300kg⇒3' × 6' 22mm

全ての機械に言えることですが、キャタピラと直角方向での吊作業は、平行方向よりも不安定度が高く、特に旋回した場合、その途中で転倒する確率は非常に高くなります。



2. 鉄板荷卸しの際は原則旋回は行わない



鉄板を吊って荷卸し、荷揚げをする際は、誘導員を付けて、作業半径内への他者立ち入りを見張ること
※必ずしもガードマンでなくて良い

但し玉掛け作業は有資格者が行う事
※作業半径と吊り荷重、鉄板の重量を意識して作業を行う



鉄板が振れないように保持する作業は、万が一の場合（フックの破損、ワイヤーの切断）を考え、鉄板が倒れても逃げられる場所で行う



地面に付いても、完全に降ろし終えるまで不用意に近づくことのないように
※この際不用意に鉄板を振らないこと



完全に降ろし終えてからワイヤーをはずす

**不用意な旋回は事故の元“これくらい---”は“もう危ない！”
転倒したときの危険な場所には絶対に入らない**



こんなことは絶対に起こさないよう、全員で意識して声を掛けあってください。